

## 事務事業評価表（一般事業）

1次評価日（主幹等） 31年3月31日

2次評価日（課長等） 31年3月31日

1 事業名	バレーボールのまちづくり事業	コード	113411
-------	----------------	-----	--------

2 担当部課	部等 教育部	課等 スポーツ振興課	作成者 小口 康生
--------	--------	------------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
		政 策	文化・スポーツの振興	施 策	スポーツの振興
		予算科目	バレーボールのまちづくり事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	スポーツ基本法第4条・第7条・第22条		

## ●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	バレーボールの振興及び競技人口の拡大「人づくりとまちづくり」「地域の活性化」「活力の創出」のため各種バレーボール大会等を開催する。			
目的	対象者	市民		
	意 図	市民スポーツの振興を図る。		

5 事業の実施内容		*30年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第17回岡谷カップフレンドシップバレーボール大会               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ソフトバレーボールの部 18チーム 85名</li> <li>(2) ママさんバレーボールの部 9チーム 102名</li> <li>(3) 高校生男子の部 12チーム 158名</li> <li>(4) 高校生女子の部 32チーム 331名</li> <li>(5) 中学生の部 26チーム 271名</li> <li>(6) 小学生の部 48チーム 498名</li> </ul> </li> <li>・中学生男子バレーボール教室 14名</li> <li>・中学生女子バレーボール教室 43名</li> <li>・小学生バレーボール教室 68名</li> </ul>			
前年度の課題への対応	少子化に伴い小中学生の競技人口の減少が課題になっているなか、岡谷市バレーボールのまちづくり実行委員会及び岡谷市体育協会並びに各団体と連携し、小中学生対象の教室等を開催しバレーボール人口の増加を図った。			

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)	
① 活動指標（指標名）	岡谷カップフレンドシップバレーボール大会開催数			単位	大会
	実績値	6	6	6	
	*指標の説明	岡谷カップフレンドシップバレーボール大会の開催数			
② 成果指標（指標名）	岡谷カップフレンドシップバレーボール大会参加者数			単位	人
	目標値	1,575	1,516	1,693	1,693
	実績値	1,516	1,693	1,445	
	達成度	96.3%	111.7%	85.4%	
	*指標の説明	岡谷カップフレンドシップバレーボール大会の参加者数			
*目標値の設定方法の説明	過去3年間における実績の最大値				

7 ア) コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
① 直接事業費	485,332	482,190	434,214	500,000
経常経費	485,332	482,190	434,214	500,000
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
② 人件費	800,000	800,000	2,400,000	2,400,000
正規職員の人数(人)	0.10	0.10	0.30	0.30
③ 合計コスト(①+②)	1,285,332	1,282,190	2,834,214	2,900,000
前年度比		99.8%	221.0%	102.3%
財源				
一般財源	1,285,332	1,282,190	2,834,214	2,900,000
内訳				
特定財源	0	0	0	0
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	214,222	213,698	472,369	
前年度比		99.8%	221.0%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
バレーボールのまちづくり事業負担金	件数	1	1	1	1
	金額	485,332	482,190	434,214	500,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	485,332	482,190	434,214	500,000
	割合	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

\* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

\* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

標準

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。		0
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。		0
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

\* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

低い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。		0
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値	前年度比
	85.4%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値	達成度
	85.4%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) 少子化に伴い小中学生の競技人口が減少していることから、競技人口の増加が課題となっている。 また、現行の大会や各種教室等を安定的に開催していくための組織体制の強化や、負担金に頼らない事業運営への転換が課題となっている。	
	改善方法	(上記の課題をふまえて31年度以降に実施する、具体的な改善の内容) バレーボールのまちづくり実行委員会主催のバレーボール教室及び、市主催のバレーボール教室や体験型イベント等において、積極的な勧誘を行い競技人口の増加を図るとともに、大会参加料の見直し等について検討を進める。
改善開始時期		平成31年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による31年度の優先度 *H29年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---